

補助事業番号 23-4-026  
補助事業名 平成23年度（復興支援）被災者に対するカウンセリング、調査活動  
補助事業者名 松本大学東日本大震災災害支援プロジェクト  
木村 晴壽

## 1 補助事業の概要

### （1）事業の目的

今回の大震災により、学校そのものが津波による大きな被害を受けた義務教育機関が多数ある。それらの学校では、被災地に居住する他の住民と同様、津波襲来直後の陰惨な状況を体験をすることで精神的に大きなダメージを受けた児童を多く抱えるだけでなく、通常の教育活動に復帰することすら未だに実現していない状況にある。通常の教育活動への一刻も早い復帰と、震災被害に遭遇した児童らのカウンセリング等を通じてこうした教育機関を支援することは、喫緊の課題となっている。

上記の課題を解決するため本プロジェクトでは、相当の被害を受けた特定の小学校（宮城県石巻市立大街道小学校）を対象に、教育機関を丸ごと支援することで、正常な教育活動の再開が一刻も早く実現するよう、様々な支援を実施することを目的としている。あるべき小学校の姿を取り戻すため、各児童の家庭環境の整備・学校施設の清掃や整備・児童や教職員の安定した精神状態の確保・学習環境の確保等が必要であり、それらの目的を達成するため、カウンセリングの実施・校区内民家の整備・避難所で生活する児童への夜間学習支援を継続的に実施する。

### （2）実施内容

平成23年4月以降、ほぼ1年間にわたり宮城県石巻市の大街道小学校を丸ごと支援する活動を展開してきた。具体的には、小学校の教育活動を再開するため校舎清掃等の支援、正常な教育活動への復帰を目的としたカウンセラー派遣と学習支援、および校区内民家の整備・清掃を実施した。

被災児童等に対する定期的なカウンセリングは予想以上の効果をあげ、当該小学校からは、平成24年度も引き続いてのカウンセリングを強く望む声が寄せられている。一方、学習支援に関しては、避難所の閉鎖にともない対象児童が激減したため、9月までの実施となった。



## 2 予想される事業実施効果

小学校校区内の民家清掃・整備、具体的には瓦礫撤去作業は、秋口にはほぼ終了し、最終的に重機による大規模取り壊し等を待つだけとなったが、カウンセリングは著しい効果をあげ、児童たちの落ち着きにつながった。こうした心のケアは、中長期的かつ継続的に行うことでより効果をあげることが可能であり、そうすることで今後、児童心理的にさらなる良好な効果を生み出すと見られる。

## 3 本事業により作成した印刷物等

特になし

## 4 事業内容についての問い合わせ先

所属機関名：松本大学東日本大震災災害支援プロジェクト

住 所： 〒390-1295

長野県松本市新村2095-1

代 表 者：役職名 活動リーダー 木村晴壽（キムラ ハルヒサ）

担 当 部 署：事務局 事務担当 松田 千寿子（マツダ チスコ）

電 話 番 号：0263-48-7200

F A X：0263-48-7290

E - m a i l：matsuda@matsu.ac.jp

U R L：http://www.matsumoto-u.ac.jp/2011/tohokuproject/